

会 議 名	第一回港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理候補者選考委員会
開 催 日 時	平成 31 年 4 月 8 日 (月) 14 時から 16 時まで
開 催 場 所	麻布区民協働スペース
委 員	出席者 5 名 阿部委員、請川委員、宮地委員、有賀委員、野上委員、
事 務 局	麻布地区総合支所管理課 加茂課長、施設運営担当 駒井・宇野
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員委嘱 3 委員の紹介 4 委員長、副委員長の選出 5 議題の審議 議題1 公募要項(案)について 議題2 第一次審査・第二次審査(審査方法、選考基準)について 6 今後のスケジュール 7 閉会
配 付 資 料	<p>[席上配布]</p> <p>資料1 港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者選考委員会設置要綱</p> <p>資料2 委員名簿</p> <p>資料3 公募要項(案)</p> <p>資料4 公募要項様式集(案)</p> <p>資料5 第一次・第二次審査の進め方(審査フロー図)</p> <p>資料6 審査表(案)</p> <p>資料7 業務基準書(案)</p> <p>資料8 選考スケジュール(案)</p> <p>参考資料 港区立麻布子ども中高生プラザパンフレット 港区立麻布子ども中高生プラザ図面</p>
会議の結果及び主要な発言	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 (麻布地区総合支所長挨拶) 2 委員委嘱 (委嘱状の交付)

- 3 委員の紹介
(全委員自己紹介)
- 4 委員長、副委員長の選出
互選により委員を委員長に選任
「港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者選考委員会設置要綱」に基づき、麻布地区総合支所長を副委員長に選任
- 5 議題の審議
議題1 公募要項(案)について
・事務局より公募要項(案)について説明

委員長
A委員

それでは、何かご意見ございますか。
5ページの職員体制の項目に、言語に関する職員体制の配慮について特段記載はないのですが、基本、日本語で来てくださいという話なのか、麻布地区の特性に応じた職員体制について、区側から求めるものでなくて、相手方の提案にゆだねるものなのでしょうか。

事務局

現在の指定管理者の中でも、英語及び中国語を話せる職員が配置されております。そういった配慮は引き続き必要だと考えており、多言語・多文化の利用者に配慮した事業運営についての考え方と具体的な取り組みについて提案を求めています。しかし、公募要項に職員体制の配慮についての具体的な記載がないため、工夫させていただきます。

D委員

問題は、言葉が通じるかどうかということですが、現在は何ヶ国ぐらいと認識していますか。

事務局

10カ国ぐらいです。

D委員

単純に英語だけっていうわけにもいかないですね。

A委員

港区の調べでは、港区の外国人に対しては、7割方英語で通じるので、一定程度英語対応があれば、大概コミュニケーションがとれます。

D委員

どこの地域でも外国の方が増えているので、この問題がありますね。

港区では保育用語集みたいのは作ってらっしゃるのでしょうか。

B委員

区内の保育施設の指定管理者などの選考では、事業提案に多言語対応を入れて、用語集のようなものを自主的に用意することが多いですね。

今回の提案の中にも多言語・多文化に配慮した事業運営、地域特色を生かした児童健全育成といった課題を出していますので、応募事業者が提案してくれるかと思えます。

D委員

応募事業者がどこまで何を要求されているか、わかってくれば問題はないと思えます。

B委員

麻布地区に限らずいろんな施設の指定管理者選考をやる時に、例えば給食であればハラルが対応できる等といったことを売りとして、提案してくる流れがあるようです。

D委員

英検について、英検の保育版バージョンみたいのがあり、本当に保育園中で使う単純な会話を検定するもので、学校によってはそういう基礎を学ばせている場合もあります。あとは保育の中で使われる主な国々の言葉集というのがあります。そういうものがあると、働く方も不安感がないですね。

委員長	他にございますか。
B委員	20 ページの一番下に、提出書類はA 4 番縦 1 枚以内と記載がありますが、非常にいいことだと思います。字の大きさも指定しますか。
事務局	様式集には。文字のフォントはMS 明朝 11 ポイントと記載しています。公募要項にも明記して誤解のないようにさせていただきたいと思います。
委員長	他にいかがでございますか。
C委員	公募日程に関して若干余裕があるような気がするのですが、公募期間の長さについて見解をお聞かせいただきたい。これが悪いということではございません。
事務局	公募にあたり一定程度の期間は必要ということで、議会の日程も想定してこの期間をとらせていただいた。
B委員	今回 10 連休も加味されているということでよいのでしょうか。
事務局	はい。
委員長	他にいかがでございますか。
D委員	障害のあるお子さんや、多文化への配慮も入っていますが、体が弱いとか、或いはもうちょっと進んだ問題としては、今、治療受けておりますというようなお子さんは受けているのですか。
事務局	今は障害者の方がお一人通われていて職員を 1 名付けていますが、医療的ケアが必要子どもはまだ利用していません。
委員長	他にいかがでございますか。
D委員	子育てひろばが併設されているとのことですが、地域の高齢者との交流などは特に配慮の中には入ってないでしょうか。
事務局	地域との交流については様式 29、30 で、町会やほかの施設との交流をご提案いただければと思っています。
D委員	この施設はとてもおしゃれな感じがしますし、アリーナまであるという恵まれた施設でございます。それからいろんな活動ができるスペースが設けられて、学習室は人数上大丈夫そうですか。
事務局	現状は入りきらないといった問題はありません。
D委員	子どもが増えても、事故が起きないように施設側もかなり注意して運営しています。年齢が上がってくると、単純に預かるだけの施設では、子どもたちが満足しないですが、ここなら高学年になっても、いろいろな活動が出来るのでいいと思います。
C委員	質問ですが、様式 25 の配慮を必要とする子どもについて、L G B Tの方への配慮は、別で検討されるのか、それとも配慮を必要する子どもの中に入れているのでしょうか。
委員長	そうですね、特別な配慮という表現にしますか。
B委員	区でも子どもの施設にL G B Tという概念がまだないのだと思います。大人の施設の場合は当然L G B Tへの配慮が徹底されていますが、子どもの施設にまで及んでいません。
B委員	事務局的な発言になりますが、「特別」という言葉をあえて入れてないのは「特別」という言葉が逆に差別化感が伴う言葉でもあるので、単純に配慮を必要とするという表現にしているのだと思います。「特別」という言葉が必要なのかどうか、内部で検討させていただきたい。
委員長	もし利用が難しいとなるとそれだけの理由が必要になりますので、その辺りも含めてご検討いただくということでよろしいでしょうか。

事務局 委員長 全委員	<p>はい。</p> <p>その他のご意見がなければ、ただいまの審議での修正をした上で港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者公募要項を決定したいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(承諾)</p> <p>議題2 第一次審査・第二次審査(審査方法、選考基準)について ・事務局より審査方法と審査基準について説明</p>
委員長	<p>それでは、第一次審査、第二次審査、審査方法及び審査基準につきましてご審議をいただきます。</p>
D委員	<p>第二次審査の審査ポイントの中に「職員の育成・執行体制」とありますが「運営体制」のほうが一般的にわかりやすくてよろしいのではないのでしょうか。</p>
事務局 A委員	<p>修正をさせていただきます。</p> <p>二点ほどあります。</p> <p>一つ目は、公認会計士の方に評価していただく財務状況と資金収支計画についてですが、以前別の選考で、財務状況は可で資金計画がEでも二次審査に進んだことがあります。その事業者は錯誤により5年間赤字の資金計画を出してきたためEと判断されたのですが、明らかに事業所の錯誤による申し込みの場合は、事務局として丁寧なチェックをしないと、後で選考結果の信憑性を問われることになるので注意した方がいいかと思います。</p> <p>二つ目は、地域の拠点としての活動の積極性に関する事項の児童ボランティア活動や地域のボランティアとの連携についての考え方と取組について、一般論で答えてもらうのか、麻布地区の児童ボランティア活動や地域ボランティアの状況を踏まえて答えてもらうのか、事務局の意図がわかりにくいかもしれません。</p>
事務局	<p>まず財務状況分析の件については、制度所管に確認させていただきます。</p> <p>児童のボランティア活動や地域のボランティアとの連携についての考え方と取組については、一般論で提案するか、地区の状況を踏まえて提案するかというのも一つの業者の姿勢と考えていましたが、基準を揃えた方がいいのかについてご意見いただければ、公募要項も工夫させていただきたいと思います。</p>
A委員	<p>ボランティアの提案については、スタートラインは揃えてあげて、基本的には同じ土俵の中で+αを引き出していくほうがよいと思います。</p>
B委員	<p>ボランティアの件について、事務局も児童関係のボランティア活動をすべて網羅しているわけではないので、基準を提供することは難しいと思います。やはり、その事業者なりの調査に基づいた提案であっても一般論であっても、それなりの評価ということで致し方ないと思いました。</p>
D委員	<p>町会・自治会や小中学校との交流についてはよくある項目ですが、児童のボランティアの項目は珍しいと思います。児童のボランティアだけで一つ項目を起こして大丈夫かという懸念が少しあります。</p>
C委員	<p>むしろどこかに吸収させて一つ項目をなくすことは無理なのではないでしょうか。</p> <p>1ページの運営方針や参考資料の裏面に自主性や主体性という記載があるので、自主性とか主体性を伸ばす施設づくりというのがいいのではないのでしょうか。</p>
D委員	<p>ボランティア活動というより自主的な活動のほうがいいですね。</p> <p>ボランティア精神を育むぐらいがすごくよいと思います。</p>

E委員	この地域の小・中学校、企業等との連携のところにはたくさん含まれているので、利用主体者である幼児から高校生くらいまでの同世代の関わりと町会・自治会との交流等の世代間交流を分けて、そこにボランティアとか自立性とかっていう意味をもう織り込んではどうでしょうか。
D委員	それくらいにしとくと、現実味があっていいと思います。
C委員	1ページの運営方針がやはり大事だと思うのですが、運営方針が提案にどう反映されているか、運営方針を達成できるかという評価ができる書き方になっているとよいと思います。
D委員	いいと思います。 記載方法だけですが、第一次審査の審査項目の「基本的な運営方針・目標」について、単なる基本方針ではなく「麻布子ども中高生プラザの設置目的を踏まえた基本的な運営方針・目標」とするとよいと思います。
事務局	修正させていただきます。
C委員	指定管理者の職員の待遇があまり良くないと言われていることもあるので、職員の待遇についてもわかるように書いていただくといいのではないのでしょうか。
事務局	管理運営体制の様式の中で、書いていただくようにしたいと思います。
B委員	修正をお願いしたい。 資料の5に二次審査のプレゼンテーションは各事業所15分程度とありますが、程度ではなく15分というきっちりした時間で区切ってほしい。ヒアリングは程度でよいです。
事務局	修正いたします。
A委員	選考の進め方について、一定程度及第点を決めたほうがよいと思います。
委員長	業者の数に関わりなく60%以上でどうでしょうか。 また、指定管理者候補者の数の問題ですが、何位まであげることにしましょうか。
事務局	資料に書いておりますが、上位2者から3者までが二次選考に進むようにしたいと考えています。
D委員	複数の業者が60%以上取った場合は、点数差と二次審査での逆転可能性を考慮しながら何位までを候補者とするか、改めて審議をするという考えですね。
C委員	財務状況分析で足切りをするという考えはあるのでしょうか。
A委員	冒頭事務局にお願いしたのですが、資金収支計画がEの事業者が一発退場にならないのかという話について制度所管でどう整理したのか、確認していただきたいと思います。
委員長	その他ご意見はございませんでしょうか。なければ、第一次審査表、第二次審査表を一部修正の上、決定いたします。
全委員	(承諾)
	6 今後のスケジュールについて ・事務局より今後のスケジュールについての説明
	7 閉会

会 議 名	第二回港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理候補者選考委員会
開 催 日 時	令和元年6月25日(火) 18時から 20時まで
開 催 場 所	港区役所5階 511会議室
委 員 員	出席者 5名 阿部委員、請川委員、宮地委員、有賀委員、野上委員
公認会計士	坂本 亮氏
事 務 局	麻布地区総合支所管理課 加茂課長、施設運営担当 駒井・宇野
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	1 開会 2 財務状況等の分析結果について 3 議題の審議 議題1 第一次審査通過者の決定について 議題2 第二次審査について (1)プレゼンテーションについて (2)追加要望資料の有無について 4 今後のスケジュール 5 閉会
配 付 資 料	[席上配布] 資料1 財務状況分析報告書 資料2 資金計画分析報告書 資料3 第一次審査(書類審査)集計表 資料4 第一回港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者選考委員会会議録 資料5 第二次審査(プレゼンテーション・ヒアリング)審査表 資料6 第二次審査(プレゼンテーション・ヒアリング)の方法について
会議の結果及び主要な発言	
	1 開会 2 公認会計士からの財務状況等分析結果報告 【財務状況分析(可・不可評価)】 事業者A:「可」 事業者B:「可」 事業者C:「可」

【資金計画分析（A～E評価）】

事業者A：「A」

事業者B：「A」

事業者C：「B」

以上を報告。

委員長

それではご報告について質疑応答に入ります。

A委員

資金計画分析の2ページのところでC社の収支見込みの妥当性にマイナス1がついています。評価としてはBになっていますが、公認会計士の立場からのご見解を伺います。

公認会計士

会計士の視点としては、収支計算の基本的なところに気になる部分があるので、このような評価をさせていただいております。

A委員

よくわかりました。

B委員

事業者Cは資金収支計画の中に持ち出し、つまり赤字があるということでしょうか。

公認会計士

事業者Cの持ち出しがある資金収支計画には少し違和感がありますが、そういうことになります。

B委員

これは間違いなのかどうかを相手方に確認するのでしょうか。

公認会計士

事業者Cが持ち出しで運営するのかどうかは明確ではありませんが、出された計画で評価をしています。

C委員

資金計画の最後のページの指定管理料の推移を見ると、例えば、事業者Aと事業者Bの令和6年度の金額は2,800万ほど差があります。そのあたりについてはどう考えるのでしょうか。

公認会計士

事業者Aと事業者Bで大きく差が出ているのが人件費です。事業者Aが8000万円弱、事業者Bが1億円程度の提案となっています。

事業者Bは、事業者Aと比べて常勤の人件費単価は安いのですが、常勤・非常勤含めて手厚く人を配置する計画を考えているので、そのためにはこの程度の人件費が必要と考えているのだと思います。

金額が少なければよいというわけでは当然ないので、事業者Aの配置人数で本当に足りるのか、事業者Bの配置人数が過剰じゃないのかといった目線で見られるとよいと思います。

C委員

事業者Bについて、施設長の人件費が安かったので常勤の人件費単価が低くなったと考えられるかと思います。

公認会計士

そうだと思います。事業者Aのほうが施設長の人件費が高いです。

事業者Aはグループ企業なので、施設長が親会社から出向してきている方となると親会社の給与水準になっているということも推測できます。施設長が給与水準に見合う人か評価することも十分有用なことだと思います。

E委員

判断が難しいと思います。

公認会計士

施設長の給与や配置については組織の事情も出てきてしまう部分ではありますが、やはり第二次審査で、実際に現場で施設長として入ってくる方を見て、どれだけ運営を理解しているかということの評価することが重要だと思います。

C委員

今回のこの状況は足切りをせず審査するべきでしょうか。

公認会計士

結果として、「不可」ではないので、審査を通してよいと思います。

E委員

事業者Cが収支のバランスがきちんと取れた報告書になっていないのは、心配ですね。また、6ページの有利子負債依存度について、事業者Aと事業者Cが少し高いよ

公認会計士	<p>うな気がします。</p> <p>有利子負債依存度の点数は3点になっていますが、借入れがあるのは普通のことなので高いというほどではありません。</p>
E委員	<p>この分野はものすごく賃金が安くて、あんまり条件が安定してないこれからの分野ですね。</p>
公認会計士	<p>そうですね、人材確保は企業の力が出ると思います。ただ、事業者Cの持ち出しはマイナス20万程度ですので、これだけで判断せず、他のところのバランスを見ながら点数をつけてもらいたいと思います。</p>
委員長	<p>他になれば、財務状況等分析結果の質疑はこれで終了といたします。</p> <p>(公認会計士退席)</p>
<p>3 議題の審議</p> <p>議題1 第一次審査通過者の決定について</p>	
事務局	<p>事務局より説明</p> <p>事業者A：812点</p> <p>事業者B：858点</p> <p>事業者C：625点</p>
委員長	<p>それでは第一次審査について審議いたします。</p> <p>まず、採点の結果について各委員から講評をお願いいたします。</p>
B委員	<p>事業者Aと事業者Bは、15点ほど差をつけていますが概ね良いと思います。事業者Cは少し点数を低くしています。</p> <p>事業者Aの不安な点は、保育園等小さい子どもたちの施設の実績が多いので、中高生向けのところはどうかというところが、少し心配です。</p> <p>中高生の自主性と協調性を推進する取組として、中高生委員会の設置は興味深いところですが、シルバー人材の活用については一般的な記述に留まっています。安全対策については、外国人利用者への配慮等の記載がなく、麻布地区の地域性に特化して考えられたものではないので、事業者Bよりは少し劣るように感じました。</p> <p>事業者Bについては、同規模施設の運営実績があり、説明はしっかりしていた印象です。また麻布地区の歴史や、外国人の方が多いという特徴も踏まえて、パンフレット作成や、他の言語への対応も考えているところから、地域のことをよくわかっていると思いました。</p> <p>シルバー人材の活用はこちらも一般的な記述に留まっています。地域や大学との交流やボランティアの積極的な受け入れ、子ども家庭課の連携というところも考えており、さらには各利用者の各年代に応じたプログラムも工夫されており、魅力的だと思いました。</p> <p>事業者Cについては、港区での経験が弱いと感じました。麻布地区について一般的な記述はありますが、具体的にこの地域の特性をどれくらい検討されているのかが疑問です。また、管理運営体制ですが、副施設長の配置がないように見受けられ不安に思いました。江東区の施設と地震防災時に連携をするということですが、実現可能なか不安に思いました。外国籍の子どもへの対応も弱いと感じました。そのような理由から事業者Cは評点を低くしています。</p>
C委員	<p>私の標準点として3点の基準をどこにするか考えたときに、どうしても事業者Cは2</p>

が多くついてしまい、点が低くなっています。提案の具体性がないことや、職員の新人配置が多いこと等に疑問を感じます。

事業者Aと事業者Bの差については、事業者Bは、全体的に地域の実情に応じた計画になっており、具体的な活動も示されており、実現可能性が高いと思いました。

ただ人件費に関して言うと、施設長人件費が400万円台で低いと思いました。

事業者Aに関しては、非常にたくさん計画を提案されています。また、他地区の実績を書かれています。麻布子ども中高生プラザでどういうことをやるかをもっと書いてほしいと思いました。自主事業としてフリースクールとの提携など、不登校の対応プログラムは非常に素晴らしいと思いました。職員に関しては他と比べて専任が少ないと感じました。様式31のあたりで、顧客満足度という言葉が出てきていますが、保育や教育の分野では少し違和感があります。

結果的には、事業者Bが3社の中で計画や、様々な実績において優れていると判断しました。

D委員

私も事業者Bが一番高い評価になっています。

事業者Aは全般的に、マニュアルもビジュアル的ですし、一般論的なところはすごく楽しそうだなというふうに認識をしています。ただ、地域性となると途端に脆弱になってしまう印象です。私が満点をつけているのは、一般論で対応できる事業運営に関する項目で、コミュニティ形成手段の豊富さとか、子育てひろばでの本部特別支援チームの巡回指導による専門サポートは魅力的です。ただ、それ以外のところの記述が極端に薄くなる特徴があると思います。自主事業は不登校児への対応など魅力的で、事業系は得意だと感じました。

事業者Bは全般的に記述が手堅く、地に足のついた提案がされています。ただ、指定管理料の提案額が1億3000万円ほどとなっており、平成29年度より人件費で3000万円近く増額しているのが気になるため見積もりの妥当性を2にしています。

事業者Cはすべて一般論で提案されているので、低い評価とさせていただきました。トヨタ技術会との連携など、興味深いところがあるので聞いてみたいのですが、それ以外はマニュアルの提示もなく全般的に、内容が薄かったと感じます。年間の活動や行事の効率性・効果性の項目は、他の2社は4月から3月までのスケジュール表を出すなどボリューム感を示していますが、事業者Cは実施時期や実施回数などの規模感が全く記載されていないため低い評価となっています。

A委員

私も皆さんとほぼ同じ評価で、事業者B、事業者A、事業者Cという順番です。

事業者Aは写真やイラストを多く使い、一見素晴らしい資料ですが、所々記述が曖昧な部分があることや、虐待やいじめ、児童の家庭での様子の変化を早期に発見するための年2回の保護者面談の実施などは実現可能性も考えると少し不安な部分もありました。

事業者Bは資料がほとんど1枚に収められており、内容をコンパクトにまとめているところが評価できます。派手さはありませんが、3社の中では記述が一番しっかりしていると感じました。特に記録を取って職員間で共有するとか、おもちゃ図書館で障害児と健常児で空間を共有するといった提案は非常に良いと思いました。

事業者Cは、資料にもっと書き込みが欲しかったと思いました。働きやすい職場づくりについての考え方の項目は趣旨を理解しきれていないのではないかと感じました。金額面については、私の意見としては、それなりの事業を展開するにあたり、これだけの金額が必要というところは認めても良いのかなと思います。

E 委員	<p>結果としまして事業者Aと事業者Bについては、ヒアリングでさらに内容の方を深めたいと思います。事業者Cについては先ほどの財務状況でもかなり懸念すべき点があり、第二次審査に呼ぶ必要はないのかなと思いました。</p> <p>中高生に対しては居場所を作るだけでは駄目で、魅力がないと来てくれないので、そういう意味で事業者Aは地域性を活かした活動については弱いけれど、イベントの内容としては今時の中高生には魅力的なのかなと思いました。職員配置としてコアタイムを考えるなど幾つか面白い工夫が感じられたところも評価しました。施設長の経験も基準を超えていると思います。</p> <p>事業者Bは既にご指摘がありましたように非常に港区の状況によく通じており、全体的な運営の内容に安定感があると評価しました。施設長の実績も基準通りあると思います。いじめとか人権の配慮もよかったと思います。何よりも良かったのは児童の帰宅時の配慮についてですね。非常に具体的で経験も積まれていると感じました。また、外国語大学の学生ボランティアを入れるというのも子どもたちにとっては魅力的な要素だと思います。また、職員に有給休暇制度や住居手当もあり、時間外手当も素人目にはきちんとしているという印象で、この業界の条件としては良いほうなのではないでしょうか。</p> <p>事業者Cは具体性に欠けるということで既にご指摘がありました。私もそう思いました。職員のローテーション表も机上の空論で作ったという印象があり、気になります。全体的な記述が何々しますと言っているが、具体的な経験を踏まえてこうできるという言い方があまりないので経験が少ないのかなと感じます。多言語を話せる職員を配置するというのも実現可能性が低く机上の空論だと思いました。以上のことから一番低い点数をつけております。</p> <p>結果としては、事業者Aと事業者Bが均衡ですが、事業者Bは、安全性の確保や、地域との関係、このようなもので安定性があるということが魅力だというふうに考え少し高い評価となっております。</p>
委員長	<p>各委員の方のご意見を伺いましたので、その他採点内容等についてご意見ご質問はございますか。</p>
D 委員	<p>事務局に確認ですが、指定管理料の平成 30 年度決算はどうなっていますか。</p> <p>現行事業者の決算額と提案事業者の提案額は、ある程度比較検討する必要があると思います。</p>
事務局	<p>平成 30 年度は、概ね 1 億円で事業を展開しています。</p> <p>事業者Bは、他の事業者と比べると提案額が高くなっていますが、新人職員が少なくなっており、常勤の職員数も現状よりも多く想定しています。事業者Bとしては、人件費が膨らむことが妥当だと判断されたと事務局では理解しています。</p>
B 委員	<p>指定管理期間の 5 年間で人が定着し、当初の計画よりも人件費が上がることになった時、区に対してその分の予算の増額は要求できるのでしょうか。</p>
事務局	<p>人件費のベースアップも想定して最初に計画をいただいています。</p>
E 委員	<p>もし事業者Bが二次選考に進んだら、指定管理料を現状より高く見積もりされた件についてぜひ聞いてみたいと思います。</p>
委員長	<p>他によろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>では事務局より改めて、点数の発表をお願いします。</p> <p>1 位：事業者B 8 5 8 点</p> <p>2 位：事業者A 8 1 2 点</p>

3位：事業者C 625点

委員長

それでは、今の点数を受けまして、第一次審査の点数を確定します。

続きまして、第一次審査通過者について決定したいと思います。ご意見をお願いします。第一次審査の通過者を何社にしましょうか。

A委員

事業者Aと事業者Bは800点台、事業者Cは600点台という点差があることはもちろん、記述内容にも差があり、会計上も心配な点があるというところで、やはり事業者Aと事業者Bをさらに深くお伺いして指定管理者候補者を決定していきたいというふうに私は思います。

委員長

いかがでございましょうか。

全委員

(承諾)

委員長

では、第一次審査通過者は、事業者A、事業者Bに決定いたします。

議題2 第二次審査について

事務局

事務局より第二次審査について説明

委員長

プレゼンテーションの方法及び出席者数についてご意見をお願いします。また、それ以外に必要な条件がありましたら合わせてお願いいたします。

D委員

私は基本的にはいただいている提案資料でプレゼンテーションをしていただくのが良いと思います。人数は3人ぐらいでいいかなと思います。ただ、過去の子ども中高生プラザ等の選考の際の状況と合わせる必要もあるかなと思います。

事務局

過去の選考では4人以上が多くなっています。また、あまりパワーポイント等は使わない形が多いようです。

A委員

いただいている提案資料である程度読み込んできているので、私もそれをもとに説明していただいた方が良いと思います。

また、第二次審査の時間配分について、プレゼンテーションが15分は良いのですが、ヒアリングは15分程度ということにさせていただければと思います。

委員長

プレゼンテーションは15分、ヒアリングが15分程度ですね。

事業者には、特に強調する点を取り上げながらプレゼンテーションしていただきましょう。

D委員

与えられた15分の中で何を重点的にPRするかというのも、相手方の戦略だと思います。それを見て意欲を感じ取れますし、15分以内でとにかく計画をプレゼンテーションしてくださいという形もありかと思います。

委員長

それでは提案書のうちアピールしたいところをプレゼンテーションしていただくということによいでしょうか。

全委員

(承諾)

委員長

次に追加資料についてはこちらから求めますか。

全委員

(特になし)

委員長

追加資料は求めないことといたします。

施設長候補者は必ず来ていただくということで、それ以外の人数をどうしましょうか。

A委員

施設長候補者以外の方は事業者にお任せして、4名以内というところで良いのではないのでしょうか。

C委員

施設長候補者に原則としてプレゼンテーションをしていただくのは厳しいのでしよ

事務局	うか。 公募要項では、第二次審査は施設長候補者にプレゼンテーションを行っていただきますと記載しております。
委員長	それでは必ず施設長候補者のプレゼンテーションもお願いしますという言い方でどうでしょうか。
全委員	(承諾)
委員長	それでは、第二次審査の審査方法について決定いたしますが、よろしいでしょうか。
全委員	(承諾)
	4 今後のスケジュールについて ・事務局から今後のスケジュールについて説明
	5 閉会

会議名	第三回港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理候補者選考委員会
開催日時	令和元年7月2日(火) 17時30分から 19時30分まで
開催場所	麻布区民協働スペース
委員	出席者 5名 阿部委員、請川委員、宮地委員、有賀委員、野上委員
事務局	麻布地区総合支所管理課 加茂課長、施設運営担当 駒井、宇野
傍聴者	なし
会議次第	1 開会 2 議題審議 議題1 第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリング)について 議題2 指定管理者候補者の決定について 3 閉会
配付資料	[席上配布] 資料1 第三回港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者選考委員会 タイムスケジュール 資料2-1第二次審査(プレゼンテーション・ヒアリング)審査表 【事業者A用】 資料2-2第二次審査(プレゼンテーション・ヒアリング)審査表 【事業者B用】 資料3 第二次審査(プレゼンテーション・ヒアリング)評価用メモ 資料4 第一次審査(書類審査)集計表 資料5 第二回港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者選考委員会会議録
会議の結果及び主要な発言	
事務局	1 開会 事務局より本日のスケジュールについて説明 2 議題審議 議題1 第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリング)について (事業者Aによるプレゼンテーション実施)
委員長 E委員	質疑に入らせていただきます。 中高生運営委員会の設置について、非常に素晴らしい提案だと思います。現在麻布子ども中高生プラザを利用している子どもたちの状況は、どの程度把握されているので

	<p>しょうか。</p> <p>また、子育てひろばに来てくれるように促す具体的なアイデアがあれば教えてください。</p>
事業者A	<p>現在麻布地区の他施設を受託しているので、麻布地区の子どもたちの状況は把握しています。中には、愛情表現が少し苦手な子どももいると聞いています。</p> <p>麻布子ども中高生プラザでは、子ども一人一人に寄り添った運営をしていきたいと考えております。</p> <p>2点目について、児童館で館長をしていた経験で話しをさせていただくと、まずはイベントをきっかけとして足を運んでもらい、「来てくださってありがとうございます。」と声掛けをします。職員とコミュニケーションをとることで保護者同士がつながるきっかけをつくりたいと思います。</p>
B委員	<p>子ども中高生プラザは中高生の利用者が多いので、児童館や学童と比べて、子ども中高生プラザ特有の難しさや特徴があります。中高生を対象にすることについてはどのように認識していますか。</p>
事業者A	<p>中高生は思春期という子どもと大人の狭間の難しい時期だと思います。職員全員が、保護者でもない、学校の先生でもない、身近な大人という存在として関わっていきたいと思っています。私は寄り添うことを大切にし、大人が壁をつくらないということ意識してきました。</p>
B委員	<p>壁をつくらないという話について、施設長の考え方や具体的な取組があれば教えてください。</p>
事業者A	<p>現在弊社が運営している中高生施設では、まずは子どもたちからどんなことがやりたいかという意見を聞きます。話の中で子供たちがやりたいことをどうしたら実現できるかというのを一緒に考えております。具体的には、韓国語を勉強したいという中高生がいる中で、ただ韓国語を教えるのではなく、韓国の文化なども一緒に教えることによって、もっと興味を持ってもらうというような活動を行っています。また、eスポーツを施設でやりたいという子どもたちの意見をもとに、eスポーツ大会を企画し、大会の運営に子どもたちを巻き込む活動を行っています。</p>
C委員	<p>様式 17 に関連して虐待の早期発見について質問させていただきます。</p> <p>今、大変問題になっており、中高生プラザでも虐待の早期発見につながる取組をお願いしたい。職員研修については記載がありますが、どのような意識で対応をしていけば虐待の早期発見が可能になるのかについての考えをお聞かせください。</p>
事業者A	<p>虐待に関しては子どもの命と子どもの安全が第一であることを職員全員共通の理解として持っております。研修も大事ですが、やはり日頃接している私たちが子どもの普段の様子をしっかりと把握することに努めてまいります。子どもの様子が少しでも違うようであればすぐに情報共有をして、必要であれば、関係機関につなげていきます。また、弊社では児童相談所に勤めていた心理士がいるので、すぐに相談できる体制が整っています。</p>
C委員	<p>様式 31 の顧客満足向上の6つ重要施策の中で、2番に「取捨選択する」とありますが、具体的にどのような取組を会社としてされるのかお聞かせください。</p>
事業者A	<p>苦情処理を想定して話しをすると、大事なお声として、まずはお話を伺うということ大切にしております。その中で対応できることとできないことがあるかと思えます。例えば、イベントの要望などについてはできるだけお答えしていきたいのですが、お昼にお弁当を出してほしいとか、夜9時まで預かってほしいといったお答えできな</p>

D委員	い要望もあるので、そうゆう意味での取捨選択をさせていただくということです。
事業者A	麻布子ども中高生プラザの平成 29 年度までの決算額と内容については公開されていますが、平成 29 年度は常勤職員 16 名、非常勤職員 9 名の 25 名で運営はされています。御社は常勤職員が新人 1 名含めて 12 名、非常勤職員 12 名の 24 名と提案されており、現状より 1 人少ない体制です。人員配置の考え方について、現状とどのような比較をしてこの人数を算出されたのか、お聞かせください。
D委員	弊社は非常勤職員も優秀な人材を揃えています。もちろん現状の数字も確認した上で算出していますが、弊社は本当に人材に力を入れており、人材の多能化ということで、人数というよりも能力を考え 24 名でも問題ないという認識のもとご提案をさせていただいております。
事業者A	常勤職員と非常勤職員の違いをお聞かせください。
D委員	正社員かどうかの違いであり、原則常勤並みに働く人と考えております。
事業者A	配置される職員の平均的な経験年数をお聞かせください。
D委員	新人は新卒なので 1 年未満です。弊社は法人としてはまだ若い会社で 13 年の経験しかありませんが、中途採用の採用比率が高くなっています。経験者は少なくとも 3 年から 5 年ほど経験しています。
事業者A	子ども中高生プラザは大型の児童館なので、24 名の方をうまく年代別に配置し、効果的に多世代を見なければなりません。そのようなことは十分考慮された人員配置を出されているということでしょうか。
D委員	はい。
事業者A	最後に受託経費見積書について、先ほど人材の多能化という話がありましたが、職員人件費が現状の決算額よりも、少しディスカウントしていただいている感じがあります。一方で、施設管理経費は提案額の方が高くなっており現状の決算額と乖離がある印象です。この辺の試算についてはどのようにされたのでしょうか。
D委員	初年度はホームページの作成費で 250 万円計上しています。データ等が引き継げる場合は、30 万円から 50 万円ほどの金額に変わると考えています。他の部分は子どもたちのための事業運営にかかる費用として必要な金額を算出させていただいております。
事業者A	施設長候補者の方は小学生から高校生まで経験があるようですが、学校から子どもたちが帰ってきたときにどのような言葉をかけますか。
D委員	まずは「おかえり」と声をかけます。子どもが自分から話してくるときは、それはしっかりと受けとめていきたいと思えます。なかなか話せないお子さんに関しては、今日は学校どうだったとか、今日児童館で何したいなど子どもが楽しいと思える話から、コミュニケーションをはかっていきたいと考えております。
事業者A	課題を持った子どもも増えていますが、そのような子どもの居場所づくりとしてはどのような考えをお持ちでしょうか。
D委員	私は落ち着ける場所にいることは想像力を育む大事な時間だと考えております。施設内に活動ができる場所と落ち着ける場所という二つの場所をしっかりと作っていきたくて考えております。
事業者A	それでは、時間となりましたので、プレゼンテーション及び質疑を終了いたします。
委員長	(事業者A退席)

(事業者Bによるプレゼンテーション実施)

委員長

質疑に入らせていただきます。

E委員

施設長と副施設長の候補者の方は、普段子どもたちからどのように呼ばれているのですか。

また、中学生が来た時のリアクションを実演してください。

事業者B

(施設長候補者) 私は館長と呼ばれています。常連の子どもたちが来たときには、手を挙げて「お、よくきたね」という感じで「おはよう」とか「こんばんは」と声掛けをしています。

(副施設長候補者) 私はあだ名で呼ばれています。中学生がきたら「よう」という言葉から入ります。久しぶりに来た子には「久しぶりだな」ということもありますし、常連の子どもたちが多くいるときは「何しに来たんだよ」など親しみを込めてそのような返しをすることもあります。

E委員

障害への配慮の項目で、LGBTの子どもへの経験や考え方があればお聞かせください。

事業者B

私自身はLGBTの子どもには出会ったことはありませんが、勉強はしています。LGBTも含めて様々な生きにくさを抱えている中高生もいますので、気持ちをしっかり聞いてあげるとともに、施設だけでは対応できないことがあれば、専門機関と連携しながらつないでいきたいと考えております。

B委員

中高生プラザということで、児童館の小学生とか幼児とは違った難しさがあると思います。中高生を対象としていることの難しさや、考え方、それに対しての具体的な対応などをお聞かせください。

事業者B

中学生と高校生でまた違うと考えています。中1の壁と呼んでいます。小学校時代に少し課題を抱えている子は中学生になって一気に躓き、学校に行けなくなるケースが多くあるので、やはり小学生から連続してみている中で、うまく中学生生活に馴染んでいけるような配慮が必要だと思います。高校生に関しては、彼らが大学受験や就職など高校を卒業した後の次の進路に向けた自立への一歩が踏み出せるような支援が非常に重要と考えています。

C委員

職員の採用についてどのような取組をされているのかお聞かせください。

事業者B

法人の採用は毎年計画的に行っております。今回のこちらの施設の応募に関しても、他施設とバランスをとりながらきちっと人員確保ができるよう、採用計画を練っております。

C委員

もう1点、今虐待が非常に問題になっていて、いろいろなところで気付かないといけない。様式17で記録に基づいた早期発見という非常に良い記述があります。記録を継続的に作成というのは、利用者が多い中でどのように工夫されるのかお聞かせください。

事業者B

施設の閉館後に残っている職員がぱっと集まり20分程度一日の報告をする会議を行います。その報告の中で、その日に気になった児童の報告も行い具体的に記録していきます。記録を積み重ねる中で毎日出てくる名前があると、次は要支援児童の記録表を作成し、日付順に個別の記録を残していき、その中からいじめや虐待の要素を見出していきます。

C委員

それによって具体的に気付いて、どこかに相談をしたケースもあったのでしょうか。

事業者B

はい。

D委員	麻布子ども中高生プラザの平成 29 年度までの決算額と内容については公開されており、平成 29 年度は常勤職員と非常勤職員で 25 名、指定管理料が 1 億円ほどで運営されています。現状より 2 名の増員をしており、指定管理料の person 費も 2000 万円ほど多く見積もられています。どのような考えのもと試算をされたのでしょうか。
事業者 B	施設を安定的に運営するためには、職員の定着が必要です。そのためには職員に一定程度の水準の給与を支払うとともに、人事院勧告に準拠した適正なベースアップをする必要があります。このような考えのもと、人件費に関しては適正な金額を算出しています。
A委員	施設長として、働かされている方の人間関係について、一番心がけていることは何ですか。
事業者 B	まず職員一人ひとりの状況をきちんとつかむことを心がけています。日常的な会話もそうですが、年 2 回は職員全員に面接を行い、仕事で考えていることや不満を聞き出すようにし、個人の能力や特性を最大限活かして意欲的に仕事ができるような役割分担を考えています。また、働き方改革もありますので、しっかり休んで、そしてしっかり仕事するという、ワークライフバランスを保てるように心がけています。
A委員	今までの経験の中で、職員の資質は何が一番大事だと思いますか。
事業者 B	職員の資質で大事なものは、子どもたちに指導するとか、教えるとかいうことではなく、生活を共にする、あるときは友達であり、あるときは先生であるという、子どもに沿って自分の姿勢を臨機応変に変えられる資質を持っている方だと思います。そしてもう一つは、子どものちょっとした表現や声を聞いて、その裏側にあるものを感じとれるセンスは非常に重要だと思います。
B委員	麻布地区の地域に根付いた施設運営について、具体的にはどのようなことを想定されていますか。
事業者 B	こちらの地域には 2 つの町会がありまして、両方の町会との関係を良好に保っていくことが重要と考えています。また、今は地域の担い手づくりに悩まれている方もいらっしゃるのですが、職員はもちろん中高生や若者たちが地域行事に積極的に参加できるようにして、地域全体に子どもたちの声が響くような施設運営をしていきたいと考えています。
E委員	文部科学省でも地域学校協働活動と言われていますが、学校との連携に関してアイデアや実践等がありますか。
事業者 B	学校以外の場所での子どもたちの様子は、先生たちから大変貴重な情報だとお伺いしているので、中高生プラザでの様子を積極的に学校に発信していきたいと思っています。また、いろんな事業展開をする中で、学校と協働で実施した方がより効果が得られるプログラムなどもありますので、そのようなものは積極的に学校につなげていきたいと考えております。
D委員	職員配置で、現状より 2 名増員していることによる効果についての考えをお聞かせください。
事業者 B	一日平均 380 人ほどの利用者が活動している施設なので、今後さらに利用が増えることを想定すると、見守り体制の強化が必要です。施設の真ん中の休憩スペースは、異年齢の子どもたちが過ごす場所なので特に見守りの強化が必要だと考えており、職員を 1 名配置したいと思っています。 また、いじめや虐待なども増えている中で、今後 5 年間を考えると、そのような問題に対応ができる職員を 1 名配置したいと考えています。

委員長	<p>それでは、時間となりましたので、プレゼンテーション及び質疑を終了いたします。 (事業者B退席)</p> <p>(採点・休憩)</p>
事務局	<p>議題2 指定管理者候補者の決定について 事務局より採点集計結果について説明</p> <p>【事業者A】 第一次審査 812点 第二次審査 372点 合計点 1,184点</p> <p>【事業者B】 第一次審査 858点 第二次審査 430点 合計点 1,288点</p>
委員長 E委員	<p>各委員から講評をお願いいたします。</p> <p>事業者Bは、麻布地区の地域特性をよく理解しており、広い視野で地域や当該施設の現状・役割を捉えていると感じました。また、施設長候補者が非常に経験豊富で、何を聞いてもしっかり返しがくるので安定感があります。地域学校協働活動についても前向きに捉えていて、何でも施設ではなく、必要であれば学校につなぐという提案も非常に良いと思いました。</p> <p>事業者Aは、全体としてバランスが取れていますが、地域に関する部分は、もう少しリサーチできたかもしれないと感じました。施設長候補者の方は、非常に前向きで誠意のある対応をされていたと思いますが、事業者Aが次点ということによいと思います。</p>
B委員	<p>事業者Bは細やかなところまで目が行き届いていると感じました。中高生の対応については中学生と高校生を分けてそれぞれ課題を考えていました。</p> <p>また、中高生との関わり方のシミュレーションをやっていただきましたが、施設長候補者や副施設長候補者に安定感があり良いと感じました。地域の担い手育成についてもよく考えられており、麻布地区の地域性がよく見えていると感じました。人件費のことが話題になりましたが、現状よりも高くなっていることについては適正に見積りをした結果ということに納得いたしました。</p> <p>事業者Aも悪くなくバランスが良いと思うのですが、施設長候補者の評価や地域特性の理解などについて事業者Bのほうが良いと感じたため少し点数の差をつけています。</p>
C委員	<p>私はあまり差がつきませんでした。</p> <p>事業者Aも施設長候補者の人柄が誠実そうな印象で力がありそうだと評価はしております。事業者Bの施設長候補者は話が上手で人を引きつける力があり、管理能力も非常に高い印象を受け信頼度が高いと評価しました。</p> <p>大きく点差がついたのは虐待の発見についてです。事業者Bは信頼できる細やかな対応を考えていましたが、事業者Aは発見しなければならない意識はあるものの、具体的な子どもへのアプローチや主張が弱かったと感じました。</p> <p>また、地域への関わり、意識について、事業者Bは地域特性に精通していて、地域を大事にするという認識が強く感じられたので点差をつけています。</p>
D委員	<p>私も事業者Bを高い評価にしています。</p>

職員配置について質問させていただいた件については、お話を聞いて理解ができました。見守りの強化ということで、ポイントをしっかりと押さえていたと思います。事業者Bが2人強化してでも見守りをしたいという話で、逆に事業者Aは1人減らして非常勤比率を上げて大丈夫ですという話をされており、悪くはないのですが幅広い年齢の子どもが利用する大型児童センターに対する職員配置についての考え方に少し不安を感じ、事業者Bの方に高い評価をしています。

また、事業者Aの施設長候補者は一般論に終始していて、少し緊張されていた印象でしたが、事業者Bの施設長候補者はすべてにおいて力強さや具体性を伴った説明をされており、信頼できる事業者であると感じました。

A委員

事業者Bは、地域をよく理解し、何より子どもたちの地域愛を育む姿勢がとても良いと思います。また、地域にある大学の若い人たちの力を借りることは良い方向性だと思います。施設長候補者にも期待しております。副施設長候補者も主任候補者も力がありそうな方よかったです。1時間ごとの職員シフト表というのは非常に合理的なシステムだと思いました。いろいろな子どもたちと関わることができ、人が変わると子どもも気持ちが変わることができて、職員も疲れ過ぎることがなく、良い方法だと思いました。集団降室も非常に慎重で、丁寧で、子どもの実態に即した送り方だと思いました。

それに対して、事業者Aは全体的なバランスは取れているのですが、施設長候補者が課題を持つ子どもの居場所づくりについて聞いたときに、様々な子どもたちがいて、いろんな課題を持っているという認識が少し薄いかなという印象を受け、少し気になりました。そういう意味で少し足りなさを感じました。地域性についても、具体性が少し弱いところが減点となっています。

委員長

それでは、第一次審査・第二次審査合計点数及び順位を発表します。

1位 事業者B 合計点数 1,288点、

2位 事業者A 合計点数 1,184点

よって、港区立麻布子ども中高生プラザの指定管理者候補者は1位の事業者Bでよろしいでしょうか。

全委員

(承諾)

委員長

それでは、当委員会として、港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者は、事業者Bと決定いたします。

3 閉会

以上をもちまして、港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者選考委員会を終了いたします。